



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第344号

2017年12月11日

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

県内2番目に高い国保料 3,506円

2018年度から国民健康保険が市町村から県に移行（広域化）されます。それにともない、国保料について県より標準保険料率が示されます。

11月28日、千葉県から2018年度、第3回目の試算結果が公表されました。八千代市は、一人あたりの保険料が113,881円で県内2番目に高く、17年度保険料（理論値）との比較でも3,506円増となってこれまた、県内第2位の増額となっています。

いまでも、高すぎて払えない滞納世帯が6409世帯（24%）にもなっているのに、いっそう滞納世帯が激増し、短期保険証・資格証明書発行で、病院に通えず、「国保が命を奪う」深刻な事態に追い込まれてしまいます。

異常に高い国保料

国保の総収入に占める国庫支出の割合は、1980年 57.5%、1990年 38.0%、2000年 34.9%、2015年 20.3%にまで落ち込み、社会保障として、公的責任で国保を支えなければならないのに、国の責任を放棄しています。

その一方、国保加入者の一人あたりの保険料と世帯収入をみると

1984年	179.2万円	39,020円
2000年	197.5万円	79,123円
2015年	139.6万円	92,124円



30年前との比較で、収入は40万円も減少しているのに、保険料は何と、5万3千円も増えているのです。

さらに、保険者ごとの負担率（収入に対し、保険料を払っている割合）で見ると、健康保険（大企業などが加入）5.3%、協会けんぽ（中小企業）7.6%、国保9.9%で、国保の負担率が最も高くなっています。

全国知事会は、協会けんぽ並みの負担率に引き下げるのに、約1兆円の財源が必要として、負担の公平性を図るべきと訴えています。

国と八千代市の責任で国保財政の確立を

国民健康保険法の第1条に、「社会保障」と位置付けています。国保加入者に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行う（12月議会 健康福祉部長答弁）。との認識を示しました。

そうであるなら一般会計からの繰り入れで、県から示された3,506円の引き下げにとどまらず、安心して国保料を払えるために、当面1世帯1万円の引き下げを行うべきです。八千代市は、一般会計から2億6千万円の繰り入れを行えば実現できます。